

神戸まちづくり研究所業務実績

(※抜粋 H28年4月現在)

<伝える> 視察・研修

■「修学旅行受け入れ事業」 (2001年～現在まで、約8,000人)	地域・旅行会社との連携で全国の中学校の被災地体験型学習プログラムを実施。
■「東日本支援団体の神戸研修受け入れ」 (2011年～現在まで、22団体)	阪神・淡路大震災における商業や住まいの復興当事者との意見交換及び現場視察を企画。
■「伝える・繋げる /in 兵庫」 (2014年11月フォーラム開催)	兵庫県の専門家派遣制度での支援先団体を阪神・淡路の被災地に招聘。フォーラムを開催。
■「人と防災未来センター連携フィールド研修」 (2003年～)	全国の防災担当職員向け研修プログラムの一環として、被災地を案内。

<調べる> 調査・提言

■「NPOと神戸市の協働研究会」 (2001～2004年、事務局を担当)	協働の在り方についてワークショップなどの手法を使い意見交換の場を設定。
■「三ノ宮駅公共交通乗継円滑化のための調査」 (2005～2008年)	30を超えるバス事業者の現況を調査。乗継のためのガイドマップを作成。
■「兵庫県ユニバーサル社会推進事業」 (2010年、県下11都市で実施)	中心市街地におけるバリアフリー状況を調査し、マップを作成。
■「市民まちづくり支援20年」 (2014～2015年、研究会+ヒアリング)	阪神・淡路大震災からの住民主体の復興まちづくりの足跡と教訓を整理。
■「コミュニティ施策の在り方ワークショップ」 (2014～2015年、5回)	神戸市コミュニティ施策の基本方針策定のため関係者意見集約を目的に実施。

<学びあう> 交流・勉強会

■「地域活動推進講座」 (2001～2002年、3プログラム18講座を開催)	「神戸まちづくり塾」「まちづくりと新しいツーリズム」など
■「まちづくりプラットフォーム展開事業」 (2003年～、淡路、丹波、但馬)	「地域福祉」「田舎暮らし」などをテーマに、地域のキーマンと意見交換
■「建築士会中四国ブロック松山大会「青年・女性建築士のつどい」」 (2011年6月)	「住まい再建」「防災・減災」をテーマに300人ワークショップを実施。
■「東日本大震災復興支援団体研修」 (2011年～、宮城県岩手県にて)	「復興推進員研修」「気仙沼まちづくり学校」「なとり復興塾」を実施。

<ともにつくる> 地域再生・復興まちづくり

■「明舞団地再生まちづくり」 (2004年～)	「街開き40周年事業」「街開き50周年記念事業」「団地博覧会」を実施。
■「地域運行システム～住吉くるくるバス」 (2005年～2007年)	社会実験を受けて地域住民・バス会社の話し合いで運行を実現。
■「東日本復興支援まちづくり専門家派遣事業」 (2011年～2015年)	気仙沼市、釜石市、石巻市、名取市にて防災集団移転・区画整理に取り組む被災者を支援。
■「NPOによる東北復興支援活動への参画」 (2011年～)	「復興コミュニティ調査」「市民がつくる復興ロードマップ」事業参加。

特定非営利活動法人 神戸まちづくり研究所 連絡先

〒658-0076 神戸市東灘区深江北町4丁目8番19-202号

【TEL】 078-855-8520

【FAX】 078-436-2121

【e-mail】 LETO7723@nifty.ne.jp

【URL】 <http://www.kobe-machiken.org/>



まちが
変われば、
くらし
が変わる。

私たちは
本気のまちの再生を
応援します

特定非営利活動法人
神戸まちづくり研究所

修学旅行受け入れ

子どもたちに「被災地見学」「被災体験談」「炊き出し体験」などの震災体験現地交流プログラムを通じて、「災害が起こったときにできること」「日頃からできること」について考えてもらいます。ご希望に合わせて、実際に被災した地域の方々と一緒に行うプログラムをプランニングします。2001年から実施しており、中学校を中心に全国から修学旅行を受け入れ、市内十数地区で実施してきています。



炊き出し体験の様子。地域の皆さんと協力して調理し、一緒に食べながら震災の体験を伝えてもらいます。

まちづくり視察の受け入れ

様々な学会、大学研究室、行政職員その他団体などの方々に対し、専門的な見地から行う視察を受け入れます。災害復興に関する多様なテーマ（防災、都市計画、建築、医療、福祉など）について、それぞれの専門家が視察の目的に沿ったプログラムを作成し、実施します。数名から数十名までの受け入れが可能で、現地での視察だけに留まらず、付随した研修や交流会なども合わせて行うことができます。



政策提言

各自治体のパブリックコメントなど、機会に応じ、まちづくりに関わる政策提言を行います。これまで、震災復興や市民協働に関する政策提言を多数行っています。また、東日本の被災地では「市民がつくる復興計画」を、市民有志とともに検討・作成する支援を行っています。



まちづくり関連調査

都市計画、景観、交通、ユニバーサルデザイン、環境など、まちづくりに関する多様なテーマの調査を、各分野で実績を持つ専門家が実施します。これまで、兵庫県全県を対象としたユニバーサルデザイン・まちづくり・環境などの調査、都心部を対象とした交通調査、緑化駐車場の性能調査などを実施してきています。また各会員それぞれが各分野に幅広いスキルを持ち、さまざまな調査に対応が可能です。



兵庫県のガラスパーキング推進に向けた、実証実験を実施しました。

地域プラットフォーム形成

地域の課題解決力を強化・安定化することを目的とし、個々に点在する人材や仕掛けをつなぎ互いの効果や資源を複合化させる地域プラットフォームが必要とされています。設立以来、兵庫県各地でプラットフォーム形成を支援し、ワークショップや研究会を開催してきました。そこからさまざまな自律的な活動が、各地域において生まれるようになりました。



淡路地域では、さまざまなプレイヤーが集まり、つながる場をつくり、継続させています。

話し合いのファシリテーション

地域の課題解決や交流促進のために必要な「話し合い」に焦点を絞り、そのファシリテーションを行います。これまでの経験から、数名程度の集まりから数百人単位の大規模なワークショップまで、様々な規模・目的に対応することができます。またファシリテーションやワークショップに関する技術指導や研修も行います。



被災地の話し合いでは、皆さんの意見を書き留め、思いを共有するお手伝いをしました。これから次のまちづくりの議論が生まれました。

勉強会・研究会

地域社会に必要な分野について、2ヶ月に1回程度、定期的に勉強会を開催します。これまでに住宅政策や中山間集落支援、ツーリズム、シチズンシップ教育などがテーマとなりました。また現場で起こる状況に合わせて、随時、必要なテーマの研究会を開催します。

神戸まちづくり研究所とは...?

阪神・淡路大震災の復興過程で出会ったまちづくりの専門家やボランティアのリーダーが自発的に集い結成した「神戸復興塾*」から、1999年に生まれたNPOです。誰も手がけていない事業に積極的に取り組むことを旗印に、さまざまな分野でパイオニアとしての役割を果たしてきました。

*神戸復興塾：阪神・淡路大震災で活動をともしたまちづくりやNPOのリーダーが、これからの復興のあり方をともに学び合う場として、1996年4月に結成。



被災地交流

地震、土砂災害、津波、火災など様々なタイプの被災地の間を結び、交流を促します。これまで阪神・淡路、台湾、中越、広島などの被災地域間での交流を実施してきました。特に東北大地震後は、3.11支援集会や、復興バル、まちづくり学校など多様なテーマで、他地域・他都市間の被災者同士の交流の機会を創り、提供しています。

地域再生

中山間地集落や密集市街地、地方の中心市街地や商店街など、再生が求められる地域での取り組みを支援します。初動期の助言から、調査、各種ワークショップなどの企画運営、計画づくり、事業コーディネートなど、再生に向けた各プロセスを総合的に支援することができます。



団地再生

特に課題の大きなオールドニュータウンなどの団地再生に取り組みます。兵庫県の明舞団地では、平成15年から継続的に団地再生に取り組んでおり、この間、住民の活動拠点づくりを支援するとともに、団地国際博覧会やまちびらき50周年事業、多数のワークショップなどを行っています。また、課題が先鋭化する以前のニュータウンでの自律的な地域活動への支援も行います。



まち開き50年を超えた明舞団地では、「明舞お助け隊」をコーディネートし、庭の手入れやごみ出しなどの課題を、地域主体で解決する仕組みづくりを支援しています。

復興支援

災害の起こった現場に向かい、被災した市民、行政とともに復興を考え、必要な支援を行います。これまで、中越の震災、広島の大震災、城崎の火災など、さまざまな被災地で支援を行っています。また東日本大震災では、石巻市、気仙沼市、名取市を中心に、複数の自治体、地域での復興支援活動を継続して行っています。



仮設団地集会所での、復興まちづくりの会合の様子。3.11で被災した地区の復興まちづくりを継続的に支援しています。